

**医療現場の声に応え会員企業と東京同友会コロナ対策室が連携し「全周型シールドボックス」を一〇日でスピード開発、試作第一号を豊島区のPCR検査場に寄贈**

東京同友会が(株)ティ製作所(田中和江社長・練馬支部)と共同開発して全周型シールドボックスを製造し、五月十三日(水)に豊島区のPCR検査場に寄贈しました。



豊島区保健所にPCR検査ボックスを寄贈

豊島区の保健所に衛生資材を寄贈した際に、「PCR検査などの際に顔だけでなく体全部を覆えるシールドが欲しい」との要望を聞き、基本仕様を取りまとめ(株)ティ製作所へ協力を依頼しました。同社は高度な抜型加工で知られ、オフィス向けのシールドパーテーションなども開発しています。連休前日の依頼でしたが田中和江社長は採算抜きで協力を即断、そして起案から一〇日で試作一号機を完成し寄贈となりました。同日、高野豊島区長より感謝状をいただきました。

製品は撥水段ボール素材を利用したボックス型。手だけを出して患者と接することのできる仕組み、ボックス内の換気や夏場の使用も想定しダクト型送風機で室内に空気を送る仕組みとなっています。田中社長は「業界の先行きが見えない中で自社の尖がる個性(得意)を世の中に活かせる道を考えました」と語っています。

東京同友会ではコロナ支援活動で掴んだニーズや課題を元に事務局が会員企業の事業展開に役立てています。ウィズコロナの時代、これからの情勢を読み社会を見つめる中に中小企業のチャンスがあり、それ



豊島区長より感謝状授与

を実現できる技術と底力が中小企業にはあります。